

建設協 次代担う技術者に

鹿工高生が現場見学

県建設業協会（川畑俊彦会長）は15日、霧島市と鹿児島市の現場に鹿児島工業高校の生徒を迎え



桜島を背に集合写真に納まる生徒ら＝鹿児島市のマリポートかごしまで

入れ、見学会を行った。国道504号西光寺拡幅の橋梁工事やマリポートかごしまの整備状況を見学。現場の技術力やインフラ整備が果たす役割を肌で感じた。

鹿児島地域振興局建設部河川港湾課の新織恵技術主査が整備経緯や施設が果たす役割などを説明。「海外からの大型観光船の寄港も増えており、経済効果にもつながる施設。離島等の急患搬送用ヘリポートや災害発生時の対応空間としての機能も備えている」と紹介すると、生徒たちは興味深く聞き入っていた。

西光寺拡幅の現場では、工事用エレベーターで橋上に立ち、普段見る機会がない大規模な施工の様子を見学。参加した川崎優生さんは、「生きた現場を見る機会は少ないので、貴重な経験になった。将来に生かしたい」と前向きに話した。

建協の川原康夫業務部長は「立派な技術者になって、次代の業界を担ってほしい」と期待を込めた。